

科目名称：	卒業制作	
担当者名：	各コース担当教員	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	3
授業の目的・テーマ		
<p>卒業制作展は、個々の学生がどのような制作理念を持ち、どのような作品を制作してきたかを社会に向けて発表し評価を受ける場である。従って、単に2年間の事前の事後学修を含めた授業内容の総まとめとなる作品ということである。そのなかで、テーマ設定から制作そして展示会場への搬入、展示、搬出に至るまでも授業の一環として行う。また、自らの作品内容について第三者に理解してもらえよう伝えるということも学修課題として重要である。□</p>		
<p>□</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>美術学科で学んだ集大成として、実力を出し切ること。今後の制作活動の指針となるようテーマ設定、数回の中間審査そして作品完成までのプロセスを学修する。また、美術館への搬入、展示、会場当番及び搬出を行い、作品制作だけでなく展示作業に関することも含まれている。□</p>		
<p>□</p>		
<p>□</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)			100		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
計画性	自分の計画通りに制作出来た。	まずまず、計画的に制作することが出来た。	あまり計画通りに制作が進まなかった。	計画通りに制作を進めることが出来なかった。
独自性	自分だけの独自性を充分出すことが出来た。	まずまず自分だけの独自性を充分出すことが出来た。	あまり自分だけの独自性を出すことが出来なかった。	ほとんど自分だけの独自性を出すことが出来なかった。
達成度	自分の満足のいく制作が出来た。	自分の満足のいく制作がまずまず出来た。	あまり自分の満足のいく制作が出来なかった。	ほとんど自分の満足のいく制作が出来なかった。
評価	教員等による作品の評価は非常に高かった。	教員等による作品の評価はまずまず高かった。	教員等による作品の評価は思ったよりあまり高くなかった。	教員等による作品の評価は思ったより低かった。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 テーマ設定	卒業制作のテーマ設定と内容をまとめておく。	60分
第2回 テーマ設定	卒業制作のテーマ設定と内容をまとめておく。	60分
第3回 テーマ設定	卒業制作のテーマ設定と内容をまとめておく。	60分
第4回 中間審査に向けた制作	テーマに沿って制作を進めておく。	60分
第5回 中間審査に向けた制作	テーマに沿って制作を進めておく。	60分
第6回 中間審査に向けた制作	テーマに沿って制作を進めておく。	60分
第7回 中間審査に向けた制作	テーマに沿って制作を進めておく。	60分
第8回 中間審査に向けた制作 ／中間審査でのプレゼンテーション	テーマに沿って制作を進めておく。	60分
第9回 最終審査に向けた制作	中間審査を経て卒業制作完成を目指す。	60分
第10回 最終審査に向けた制作	中間審査を経て卒業制作完成を目指す。	60分
第11回 最終審査に向けた制作	中間審査を経て卒業制作完成を目指す。	60分
第12回 最終審査に向けた制作	中間審査を経て卒業制作完成を目指す。	60分
第13回 最終審査に向けた制作	中間審査を経て卒業制作完成を目指す。	60分
第14回 最終審査に向けた制作	中間審査を経て卒業制作完成を目指す。	60分
第15回 卒業制作展開催 ／卒業作品のプレゼンテーション	展示会場で搬入・展示・搬出の一連の作業を行う。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
事前事後学修を含めた卒業制作の良否で100%評価とする。

課題に対するフィードバック

作品制作について、中間審査、最終審査等で学習成果をフィードバックする。

教科書・参考書

なし